

## 第6章 新市における県事業の推進

熊本県は、県内各地域におけるアイデンティティや強みを生かした取組みの方向性などを示す「政令指定都市誕生後の県内各地域の将来像」（ビジョン）を平成23年12月に策定し、各地域において地域の優れた資源を生かしながら、持続的に安心して暮らせる社会づくりや地域振興につながるよう県と市町村が連携した取組みを進めています。

この中で阿蘇地域は、「阿蘇の草原の維持・再生等」、「九州観光の拠点化（ハブ化）の推進」、「エネルギーの地産地消（スマートビレッジ）のモデルづくり」、「地域特性を生かした農業の振興」、「熊本地震の記録・記憶の継承」、「阿蘇へのアクセスルートの回復」、「インバウンド等交流人口の回復・拡大」、「移住・定住の促進等」を主な取組みの方向性としています。

また、平成28年に策定した「熊本復旧・復興4カ年戦略」を基本方針として、「災害に強く、誇れる資産を次世代につなぎ、夢にあふれる新たな熊本の創造」の実現に向け、市町村・企業や団体等、県民一体となって取組みを進めています。その中で、県内のどの地域にあっても幸せを実感できるよう、ビジョンで示した各地域の取組みの方向性に沿って、地域の視点に立った戦略の展開を図っています。

### 1. 特色を活かした活力ある地域産業づくり

自立型地域社会の実現に向けて、基幹産業である農林業を中心に地域産業の活性化や内発型の起業化に取り組んでいます。

#### （1）阿蘇21農業・農村づくり

阿蘇の高冷地としての冷涼な気候を活かし、確実に収益に結びつく農業施策に取り組むとともに、人々の健康と自然環境の保全に配慮した、安全・安心な農作物づくりや高齢者の生きがいとなる農業に取り組んでいます。

また、管内の住民をはじめ、阿蘇を訪れる観光客に対して、阿蘇で生産された安全・安心で新鮮な農林産品を供給し消費してもらう地産地消運動を推進しています。

#### （2）豊かな森林資源の活用と保全

県内でも有数の森林資源について木材資源として、今後、さらに収益性の高い林業経営を推進すると同時に、水源涵養など環境資源という観点から森林の保全に取り組んでいます。

また、木材製品の高品質化を図るための体制づくりを進め、木材資源の積極的活用を推進しています。

## 2. 地域資源を活かした観光地づくり

阿蘇の雄大な自然や温泉などの観光素材とともに、森林、水源などの自然的素材や神話や歴史などの文化的素材、また、地域の産物や食文化などとのふれあいの場づくりを進め、農業と観光の融合を図りながら、豊かさや健康を感じられるような観光地づくりに取り組んでいます。また、地域の基盤となる観光道路などの整備を図っています。

### (1) 自然・歴史に包まれた神々の郷づくり

阿蘇の自然、歴史、文化、産業、人といった資源に着目し、これらの素材を組み合わせることで、新たな交流拠点づくりを推進し、阿蘇ツーリズムの展開を図れる、新しい滞在型観光の提供に取り組んでいます。

### (2) 交通基盤づくり

阿蘇地域における観光ポテンシャルの向上を図るために、これまでの生活・産業面の機能に加え、渋滞ボトルネック解消や公共交通機関及び道路の整備など「観光」を視点とした交通基盤の整備に取り組んでいます。

## 3. 安全・安心な地域社会づくり

少子高齢社会を迎えた中で、保健・医療・福祉の充実を図り、地域住民相互の支え合い活動や、よりよい地域環境の保全活動を進めています。

また、総合的な危機管理体制の構築を進め、安全で安心な地域づくりに取り組んでいます。

### (1) 住民一人ひとりが輝く元気な阿蘇づくり

住民誰もが、幸せに、すこやかな生活を送れるよう、地域住民のふれあい、支え合い、ボランティアの輪が広がるよう阿蘇市社会福祉協議会が取り組んでいる「阿蘇やまびこネットワーク活動」を行政として支援・協力しながら、住民総参加の地域づくりの展開に取り組んでいます。

### (2) 環境や景観に配慮した地域社会づくり

河川の源流や水源などの自然環境、雄大なカルデラや草原などの景観の保全に努めるとともに、豊かな生物多様性の保全、有明海域への環境負荷の抑制、水産資源

回復にもつながるよう、自然環境や景観に配慮した地域社会づくりに取り組んでいます。

### **(3) 火山地帯としての防災の推進**

火山地域と生活地域が共存し、火山噴出物堆積の土石流災害や、崖地、地滑りなどの危険性の高い地域として、地域防災体制の整備に取り組んでいます。

### **(4) 交通・道路環境の整備**

安全・快適・円滑な生活空間づくりのために、交通・道路環境の整備に取り組んでいます。